

西武福井店の営業継続に関する要望(本文)

○創業95年、福井駅前のシンボリックな老舗百貨店

西武福井店は福井県における唯一の百貨店として長年に渡り、福井県民・市民に親しまれてきました。前身の百貨店「だるま屋」に始まり、福井市の中心市街地である「福井駅前エリア」における中核的な商業施設として95年に渡って営業を続けられ、このエリアはもちろん福井県全体にとってもなくてはならない老舗百貨店であります。

セブン&アイ・ホールディングスから米投資ファンドへの、そごう・西武の株式譲渡が発表されて以来、地元商業・小売業関係者はもとより、多くの県民にとっても「西武福井店はどうなるのだろう」と心配の声が上がり続けています。

○北陸新幹線福井開業、県内初の外資系ホテル開業

2024年春、福井県内に北陸新幹線が延伸します。新幹線による百年に一度とも言われる好機を活かすべく、福井県、福井市、福井商工会議所の3者によって「県都にぎわい創生協議会」が設置され、福井の官民が一体となって県都のグランドデザインを2022年秋に策定し、県民挙げて北陸新幹線の経済効果の最大化を進めています。

その中で「西武福井店」は福井駅前エリアの中心的な役割を担う商業施設であり、かつ現在、西武福井店と近接する地区に、コートヤード・バイ・マリオット福井の入居を予定している大規模な再開発事業ビル(2024年5月完成予定)の建設が進行しており、このビルとの相乗効果も大いに期待されています。

○県都グランドデザインによる施策展開でさらなる相乗効果を

福井県、福井市の10年、20年先の発展を見据えた県都グランドデザインにおいて西武福井店は欠かせないコンテンツであります。また、西武福井店はこれまでショッピングセンターにはない品ぞろえやレストラン事業、また強みである外商部門によって健全経営を続けてこられ、コロナ禍においても黒字経営と伺っています。さらに今後は北陸新幹線効果に加え、県都グランドデザインによって実施する「まちなか再生ファンド」(店舗リニューアルや新規開店費用の最大3分の2補助)事業によって周辺エリアにおける新規投資も期待されており、様々な効果による西武福井店のにぎわいが実現されると思われまます。

○西武福井店の存続は地元政財界一致の悲願

このような千載一遇とも思われる好機に「西武福井店」が万が一にも閉店されるようなことがあれば、中心市街地に大打撃となります。西武福井店と福井市の中心市街地は常に一体であり、今後も一体であり続けて欲しいというのが地元の市民の願いであります。

どうか地元的心情をセブン&アイ・ホールディングス並びにそごう・西武の皆様にお汲み取りいただき、株式の譲渡先である米投資ファンド「フォートレス・インベストメント・グループ」のご理解を賜るようご支援の程、お願い申し上げます。福井駅前の地で福井唯一の百貨店が引き続き輝き続けることができますよう地元経済界はもちろん、福井県、福井市の行政機関も一致して「西武福井店」の存続を重ねてお願い申し上げます。